

## ◆ MS (多発性硬化症) について

### MSとはどんな病気？

多発性硬化症は視神経・脳・脊髄に脱髄といわれる炎症が「時間を経て(時間的多発)」「いくつも(空間的多発)」出現する、神経の病気です。神経細胞どうしをつなぐ軸索は「髄鞘」というタンパク質に囲まれています。この髄鞘が炎症によりダメージを受ける(脱髄といいます)と、神経細胞の伝達がスムーズにいかなくなります。このように、MSは「時間を経て」「いくつも」脱髄が生じるため、「複数回にわたり」「様々な」症状を引き起こします。

### どうしてMSになるの？

MSは20～30歳代の比較的若い方、どちらかというとな性に発症しやすく、日本でも患者さんが増えてきています。MSの発症するメカニズムはまだ十分に分かっていませんが、本来ウイルスなどの外敵から身を守る免疫システムが、なんらかのきっかけで誤作動を起こし、髄鞘にダメージを与える、「自己免疫疾患」と考えられています。この免疫の誤作動は、免疫システムが活発な40～50歳代くらいまで続きやすく、60歳を過ぎる頃から自然に落ち着いてくるとも言われています。逆に言うと、MSは20～40歳代くらいという、仕事や家庭生活でいちばん活躍する時期に症状を起こしやすく、生活していくうえでいかに病気をコントロールするかが大切となります。

### MSの診断や治療について

MSの診断は詳しい問診、丁寧な診察、適切な検査(MRI検査、血液検査、脳脊髄液検査、電気生理検査など)で総合的におこないません。一見MSのようにみえても、MSに似た経過をとる病気もありますので、できるだけ早く、正しくMSの診断を行い、適切に治療をすることが大切です。MSの治療は「活発な自己免疫システム」をしっかりコントロールすることが第一です。

### 現在日本では次の治療をおこなうことができます

- インターフェロンβ (ベタフェロン®、アボネックス®)
- グラチラマー酢酸塩 (コパキソン®)
- フィンゴリモド (ジレニア®、イムセラ®)
- ナタリズマブ (タイサブリ®)
- 大量ステロイド静注療法 (ステロイド・パルス療法)
- リハビリテーション
- 対症療法 (しびれ、だるさ、排尿障害などに対する治療)

これらの治療には効果や副作用に違いがありますので、病気の活動性や、患者さんの健康状態、学業・仕事・家庭生活などの社会活動など、様々な面を考慮して、ベストと考えられる治療を継続することが大切です。

ひとつの治療で病気がながく安定することがいちばんですが、場合によっては、途中で治療を変更するほうが望ましい場合もあります。MSの治療は「病気を安定させる」ことが第一ですので、効果を感じにくい場合もあるかもしれませんが、私たちは定期診察で「今治療がどのように効いているのか(効いていないのか)」を患者さんに理解していただき、ながく安全に治療継続できるようにお手伝いします。